

第20回 兵庫便教会 報告

第20回兵庫便教会を6月18日（日）西宮市立浜甲子園中学校のトイレをお借りして開催いたしました。初参加1名を加えて5名で1階男子トイレを掃除いたしました。

2か月ぶりの便教会、忙しさを理由に開催に踏み切れなかった自分を反省いたしました。なぜ、便教会をするのかという本質的な問いを自分に投げかけた時に、これまで支えてくださった多くの人の顔が思い出され、申し訳なさで一杯になりました。今の社会、これからの日本を考えたときに、掃除の教育的な意味、つまり掃除が人間形成に大きな影響を及ぼすことを教師や大人が知ることの重要性を思います。これが便教会をする理由です。

今日は始めに「無我・無心」をテーマに掃除をしましょうと呼びかけました。相変わらず、きちんと掃除のなされている浜甲子園中学校のトイレでしたので、スムーズに作業が進みました。その中で参加者はほとんど言葉を交わさずに掃除をされていました。



感想の交流では以下の話がありました。

・大きなスポンジがなかったので、大便器の水をとらずに磨いたが、思い直して水を全部取ってみると見えなかった汚れが見えた。めんどくさがらずに丁寧にすることの大事さを感じた。教育も同じだと思う。

・今日は「無我・無心」をテーマにしていたので、後の交流会でどんな話が出るのかワクワクした。

人はそれぞれに考えていることは違う。子どもたちもそうだと思う。自分は個人ノートで一人ひとりの子どもの思いを聞くようにはしている。今後は子どもの思いを共有することも考えていきたい。

・何度もしているので、体だけは動いている。しかし、気持ちを入れてやっているのかということが頭に浮かんだ。仕事もそうなっていることに気づいた。提案する時でも、みんなの思いを汲みながら丸く収めようとしていないか、そこに自分の思いを込めてやっているのか考えた。

・初めての参加。夢中にはなれたが、無心にはなれなかった。今までトイレの水を触るなど考えられなかったが、流れる水が綺麗に感じた。

・今日はきれいなトイレだったので、一つのところに留まるのではなく、いろいろなところを見て、汚れを見つける掃除となった。



ありがたいことに兵庫便教会も20回を迎えることができました。これまで数多くの方が参加をしていただいた。何かのお役にたっているのだろうか。考えると苦しくなる思いを持ちながら、続けることで力をつけていきたい。これからもよろしく願いいたします。ありがとうございます。（文責：木田重果）